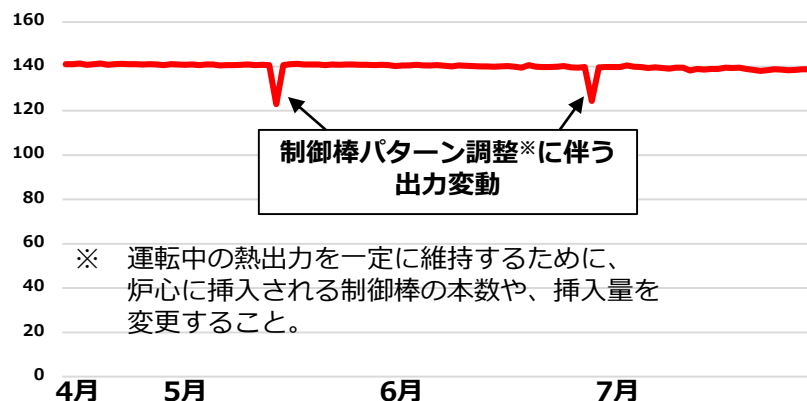


6号機における営業運転開始以降のプラント状況について

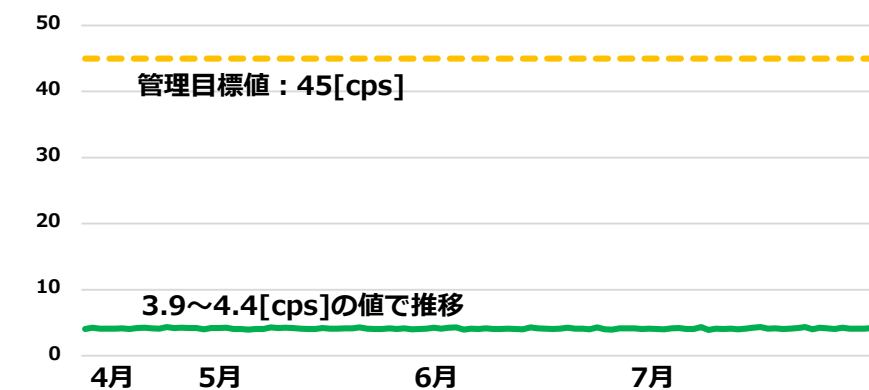
- 2026年1月21日に6号機が起動し、2026年4月16日に営業運転を開始。
- 営業運転開始以降、運転に支障が出るような不具合はなく、安定運転を継続中。
- 柏崎刈羽原子力発電所では定格熱出力一定運転を採用（P.3参照）。

2026年4月16日～2026年7月31日の各種パラメータ

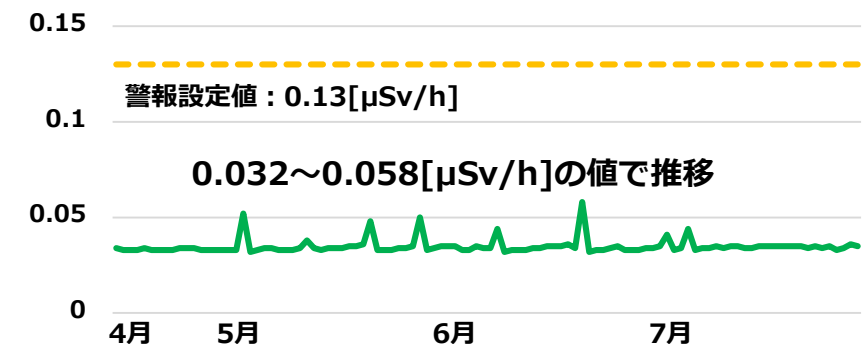
[万kW] 6号機発電機出力



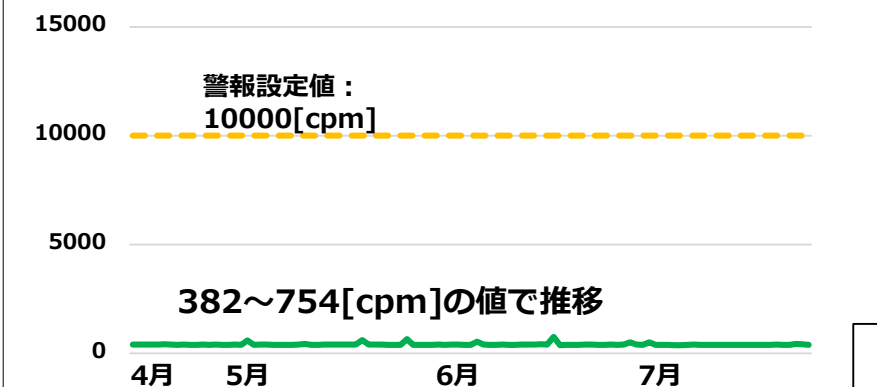
[cps] 6号機排気筒放射線モニタ



[μS/h] モニタリングポスト



[cpm] 海水放射線モニタ



(参考) リアルタイムデータの公開

- 各データの最新の値は「柏崎刈羽原子力ポータル」の「リアルタイムデータ」で確認可能。
URL : https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/kk-np/kk-info/index-j.html



東京電力ホールディングス



柏崎刈羽原子力発電所
トップ

新潟本部
トップ

柏崎刈羽原子力発電所
情報ポータル

情報公開基準 発電所の安全対策 よくあるご質問 起動工程アーカイブ

柏崎刈羽原子力発電所6号機 最新情報

4月16日午後4時00分に原子力規制委員会より、使用前確認証、使用前検査合格証の交付を受け、営業運転を再開いたしました。

電気出力約135.6万kWで運転中

※ 区分Ⅱ以上の不具合発生時はこちらに掲載します

モニタリングポスト※測定値など

原子炉の圧力・水温・水位

作業の様子などはこちら

リアルタイムデータ

プラントデータ

動画アーカイブ

※発電所境界の放射線量

どのように発電しているのか？

Q&Aで読み解く電力のこれから

会見資料・映像はこちら

原子力発電の仕組み

原子力の必要性

柏崎刈羽原子力発電所
記者会見

プレスリリース一覧

お知らせ一覧

発電所データ集

モニタリング
ポスト

発電機
出力

排気筒
モニタ

海水
モニタ

環境
試料

放出
状況

取放水
温度

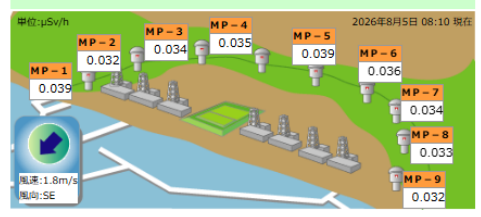
解 説

モニタリングポスト(MP)

μSv/h

雨と放射線の関係

地形による放射線の変化

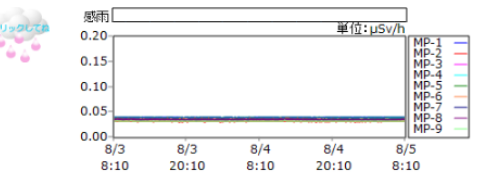


単位: μSv/h

MP	値
MP-1	0.039
MP-2	0.032
MP-3	0.034
MP-4	0.035
MP-5	0.039
MP-6	0.036
MP-7	0.034
MP-8	0.033
MP-9	0.032

2026年8月5日 08:10 現在

風速: 1.8m/s
風向: SE



感雨

単位: μSv/h

MP-1 MP-2 MP-3 MP-4 MP-5 MP-6 MP-7 MP-8 MP-9

8/3 8/3 8/4 8/4 8/5
8:10 20:10 8:10 20:10 8:10

お知らせ
本日作業に伴い、以下のデータが欠測します。
MP-8: 2026年8月5日 8:50 ~ 20:00 (予定)
MP-9: 2026年8月5日 8:50 ~ 20:00 (予定)

※ご意見・ご感想については、トップページよりお聞かせ下さい。



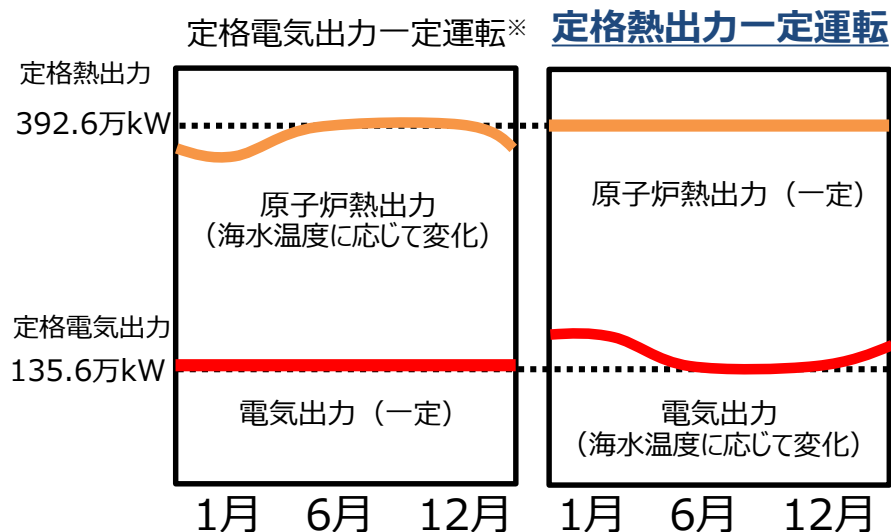
柏崎刈羽原子力発電所
リアルタイムデータ

2

(参考) 定格熱出力一定運転について

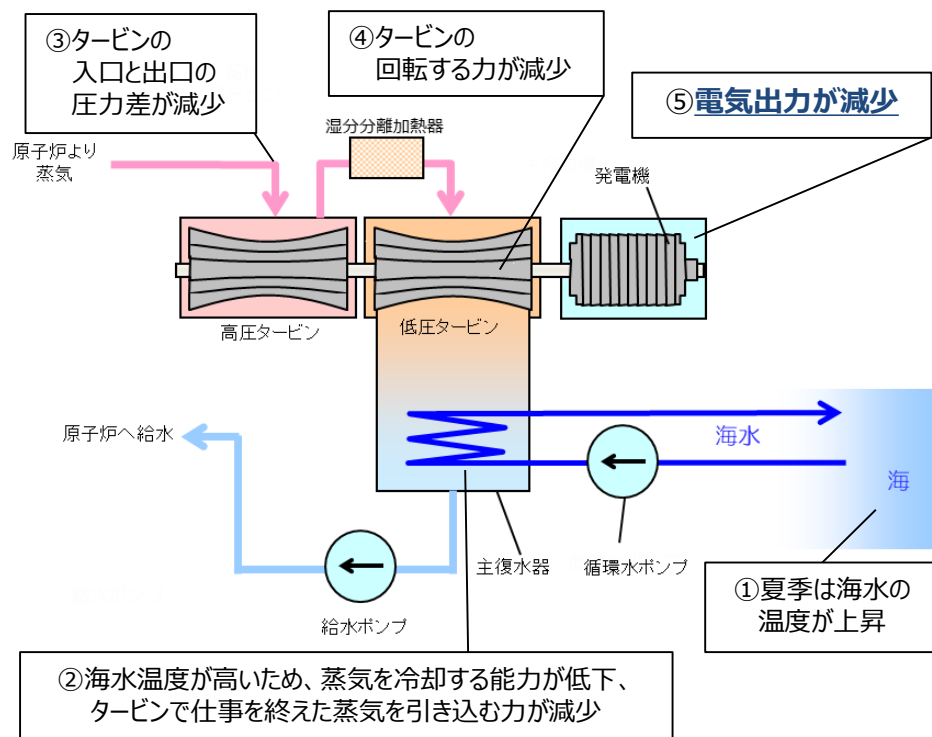
- 柏崎刈羽原子力発電所では、原子炉で発生する熱を定格(100%)付近で一定に保つ運転方法 **定格熱出力一定運転**を採用。
- 原子炉で発生する熱（原子炉熱出力）を一定に保つと、海水温度が低い冬季には発電効率が上昇し、発生する電気が増加。
- 一方で、海水温度が高い夏季には発電効率が低下し、発生する電気が減少するがプラントの通常運転には支障なし。

季節による電気出力の変動



※ 運転中の電気出力が一定になるように、原子炉で発生する熱を調整し運転することを定格電気出力一定運転という

タービン・発電機と復水器の関係

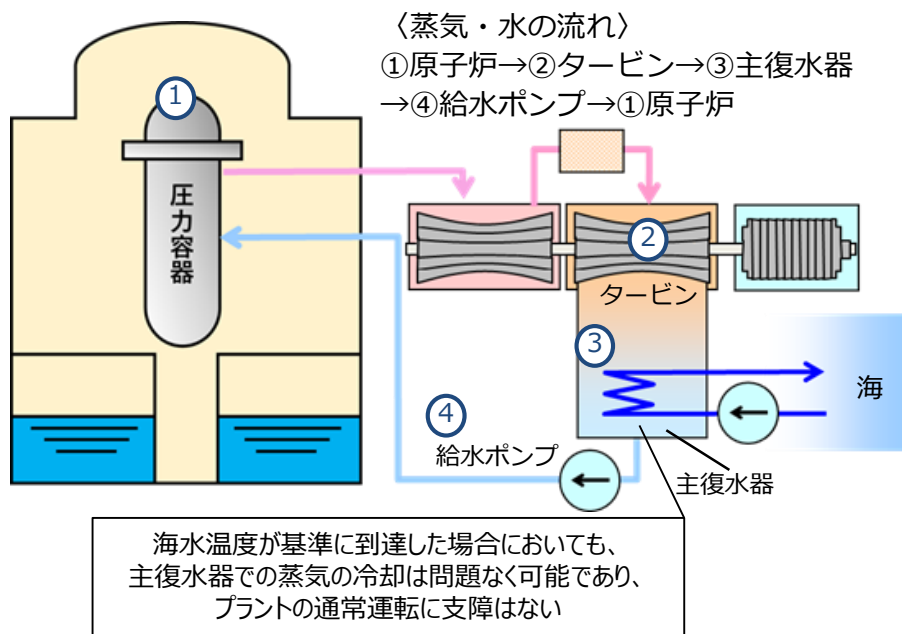


(参考) 海水温度上昇における当社自主基準について

- 当社が自主的に設定した以下の海水温の基準を上回った場合は、万が一の過酷事故の際の設備影響等を踏まえ、原子力安全の観点からプラントを一時的に停止することも検討。
 - 「**海水温度の7日間移動平均が31℃**」を超過した場合
 - 「**海水温度が34℃以上**」を観測、または「**12時間連続して33℃以上**」を観測した場合
- 過去20年をさかのぼっても、基準を上回ったケースは稀であるが、今夏の海水温は例年に比べ高めのため、引き続き注視。

海水温が基準を上回った場合の影響

■ プラントの通常運転に支障なし



■ 冷却能力低下に伴い過酷事故時の設備に影響あり

